

# Forest通信 令和3年10

No.392

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

## ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)



オレンジ色が鮮やかな蝶。ヒョウのように橙色に黒点があるヒョウモンチョウの仲間、雌の翅の端が黒色なので「ツマグロヒョウモン」と呼ばれる。雄は全体的に橙色のヒョウ柄。平地から低山の明るい草地や林縁などに生息し、公園や街中でも見られる。

成虫は年に2~5回発生し、4~11月に見られ、様々な花に吸蜜にやってくる。幼虫はスミレ類を食草とし、幼虫で越冬する。30年程前までは中部地方以南に分布していた南方系の蝶で、最近、関東まで北上してきている。これは温暖化の影響や食草になるパンジーなどの園芸種がよく植えられるようになったからと言われている。高尾付近でも見られるのは、これら人間活動の影響のようだ。

(森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.62

## マツゲゴケ (ウメノキゴケ科)

梅の木や桜の木に付いていて、少しカールしたヒダを持つ。一番の特徴はマツゲがあり、そのためマツゲゴケと呼ばれる。ほかの地衣類と区別しやすく「あ、マツゲがある」と気づく。ウメノキゴケと同じ木に付いていたりするので比較的に見つけやすい。

緑藻を共生藻とし、灰白色から灰緑色の葉状をしている。まつ毛は1.5mmをこえる。地衣体先端は掌状になり、その先端には紛芽塊をつける。地衣類は菌類と藻類が共生して「地衣体」を作る生き物で、外見はコケのように見えるがきのこと同じ菌類に属する。

藻類が光合成によって生み出した産物を栄養とし

て菌類が利用する一方、菌類は藻類を乾燥や紫外線から守っている。このように菌類と藻類はお互いに利益のある共生の関係を持っている。(富)



マツゲゴケ



マツゲゴケのまつげ



紛芽塊 (ふんがかい)

# 職場体験 八王子市立第五中学校

「おはようございます！3日間よろしくお願ひします。」との元気な挨拶が事務所に響きました。9月14～16日、当センターでは、八王子市立第五中学校の2年生3名による職場体験を受け入れました。

初日は、やや緊張した面持ちの生徒さんから職場体験をしたい事業所として当センターを選んだ理由を職員の前で話していただいた後、さっそく職員に同行して現場へ向かいました。まずは、森林教室の丸太切り体験で使うヒノキ間伐材の伐倒、玉切り、運搬作業です。直径15cmほどの立木を手鋸を使って受口、追口切りをして倒しました。立っている木を倒す作業は3人とも初めてで、緊張しつつも興味津々で作業をしていました。その後、枝払いをしてから長さ2mほどの丸太にして林道まで担いで運搬。さすがにこれは大変な作業だと実感したようです。山での楽しい昼食後、センサーカメラの記録カードの交換、事務所へ戻ってのカメラ映像のチェック等の作業。二ホンジカが多く映っていることにみな驚いていました。

2日目は、収穫調査を体験してもらいました。現地で「このスギの林を全部伐って売ったらいくらになると思う？」と問いかけてから作業開始。20m四方の標準地内のスギを輪尺などを使って毎木調査しました。藪や虫と格闘しながら作業し、事務所へ戻ってから材積や販売見込み額を計算してもらいました。少し難しかったかもしれませんが、林業という産業の現実の一端を感じていただけたと思います。2日目の締めくくり、日本の森林・林業についての講義を行い、基礎的な知識を習得してもらいました。

3日目は、日影沢から高尾山頂近くまで続く「いろはの森遊歩道」の点検作業です。マップとカメラを持って遊歩道沿いに危険箇所がないか、木道に異常がないかなどチェックしながら山頂まで歩きました。生徒のみなさんは3日目なのでさぞ疲れているかと思いきや、みな元気満々で楽しそうに山歩きを楽しんでいる様子でした。

あっという間の3日間でしたが、後日生徒さんからお礼の手紙をいただき、そこには、「印象に残ったのは、林業は自然とふれあえる楽しい仕事だということ」「森林、林業、生物の役割や大切さがわかった。疑問があったらすぐに調べて関心を深めたい」「この経験を友達とも共有したい」「今回の体験で森林を見る目が大きく変わった」「第一次産業という人が生きる上での基礎となる産業の大切さを学んだ」「森林と上手に暮らしていきたい。そして森林を好きになっていきたい」という感動的な感想が書かれていました。

当センターでは、今後も中学生等の職場体験を積極的に受け入れていきたいと考えています。(枝)



間伐



収穫調査



センサーカメラの映像解析



森林の観察



遊歩道危険箇所等の点検

## 森林教室

### 町田市立 成瀬中央小学校

9月28日（火）に、町田市立成瀬中央小学校5年生63名が日影沢キャンプ場に訪れ、森林教室を実施しました。

午前は、6班に分かれ国有林内を森林観察。人工林と天然林の違い、木の生長など現地を見ながら学習するとともに、又スビトハギなど植物の種やスギの葉を手にとって感触を楽しんでもらいました。途中の沢筋でのサワガニ探しは全員夢中。また、変わった形をしたツリフネソウの花もお気に入りだったようです。

午後は、管理棟での座学とキャンプ場敷での丸太切り体験の2班に分かれ、交互に実施しました。座学では児童からSDGsについての質問も飛び出し、講師側がタジタジになる場面もありました。丸太切りは、最初は上手に切ることができませんでしたが、2回目は慣れてきたようで全員が上手に鋸を使えるようになり、できあがった輪切りはお土産として持ち帰ってもらいました。

児童からは「切った丸太は良いにおいがした」「普段は気づかない森林の姿を見ることができて良かった」「自然環境についてこれからも勉強していきたい」など素晴らしい感想がありました。（高）



どんな体験ができるかわくわく！



丸太切りにチャレンジ！

## 森林教室

### 大田区立 矢口西小学校

大田区立矢口西小学校5年生126名の森林教室を、9月27日（月）及び30日（木）の2日に分けて実施しました。2日とも高尾森林ふれあい推進センターで森林学習を実施後、ケーブルカーを利用し高尾山頂まで登り、稲荷山コース3.1キロを下りながら森林観察を実施しました。限られた短い時間内での実施となったためハードなスケジュールとなりましたが、昨年からのコロナ禍で様々な制約を受け、遠足等校外での体験も一切できず、今回が久しぶりの校外での活動とのことで、児童たちは本当に楽しそうでした。

森林観察では、すれ違う登山者に「こんにちは」と大きな声で挨拶しながら、スタッフの説明にも熱心に耳を傾け、ザトウムシやカミキリムシ、クモなどを見つけては大はしゃぎし、時折吹く風に「気持ちいいね！」と言いながらニコニコしている笑顔が印象的でした。

今回初めて、しかも週2回の稲荷山コースを利用した森林観察に職員とボランティアで協力いただいたフォレストサポートスタッフは、元気な児童たちに圧倒され、くたくたの2日間となりましたが、閉校式での児童たちの笑顔と口々にこぼれる楽しかったという声に充実感を覚える森林教室となりました。（谷）



最初にセンター展示室で森林学習



森林観察に出発！

# 体験林業 一橋大学

9月22日（水）に一橋大学の学生3名が「ビジネスと環境」について考えるため林業の実体験をしたいとのことで当センターに訪れました。

当日は季節外れの残暑の中、大平国有林へ行き午前中に間伐作業、午後から下刈り作業、治山工事施工現場の見学、事務所に帰ってからのディスカッション等々盛りだくさんのプログラムとなりました。

午前中の間伐作業では、ヒノキの胸高直径10センチ程度の立木を伐倒しました。もちろん全員が初体験ということもあり、緊張の面持ちでの作業となりましたが、受け口・追い口の理解度も高く、ツルも見事に残して大成功でした。その後の枝払い、搬出作業も順調にこなしましたが、さすがに全員疲労困憊という表情になって、無事に昼食となりました。

昼食時には、北海道勤務経験のある職員の「ヒグマに遭遇してびっくり！」体験談義で大いに盛り上がりました。

午後からの下刈り作業では、まず砥石を使っての鎌研ぎから入り、防火帯の刈り払いを約30分実施しました。午前の疲れもあり、ちょっと心配していましたが全員が無事に作業をこなすことが出来ました。その後、治山施設を見学し、事務所へ戻り1時間弱のディスカッションを実施して無事にスケジュールが終了となりました。

タイトなプログラムでしたが、参加された方々の集中力の高さにも救われて、充実した一日となりました。（磯）



講師から治山施設の説明



間伐作業の説明を聞く皆さん



林業経営についてディスカッション

## 編集後記

新型コロナ緊急事態宣言が解除となりました。

解除に伴いキャンプ場も10月16日から一部利用可能となります。

くわしくはホームページを御覧ください。

## ヒヨドリジョウゴ



## Forest通信 NO.392

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先  
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

